

# 展示作品一覧と撮影後記

## (1) 展示作品一覧

No	撮影対象建築物	題名	No	撮影対象建築物	題名
1	佐竹寺本堂 1	全景	17	小山寺三重塔 2	第一層
2	薬王院本堂 1	全景	18	小山寺三重塔 3	第二層の軒天
3	佛性寺本堂 1	礎石列	19	来迎院多宝塔 2	上層
4	竜禅寺三仏堂 1	全景	20	来迎院多宝塔 3	相輪
5	小山寺三重塔 1	全景	21	楞嚴寺山門 2	横からの眺め
6	来迎院多宝塔 1	全景	22	善光寺楼門 2	裏からの眺め
7	楞嚴寺山門 1	全景	23	西蓮寺仁王門 2	裏面の意匠
8	善光寺楼門 1	全景	24	西蓮寺仁王門 3	修理跡
9	西蓮寺仁王門 1	全景	25	西蓮寺相輪櫨 2	櫨身の文字 1
10	西蓮寺相輪櫨 1	全景	26	西蓮寺相輪櫨 3	櫨身の文字 2
11	佐竹寺本堂 2	正面の空間	27	西蓮寺相輪櫨 4	櫨身の文字 3
12	佐竹寺本堂 3	東側裳階下	28	西蓮寺相輪櫨 5	相輪櫨の歴史の記録
13	薬王院本堂 2	正面	29	西蓮寺相輪櫨 6	頭部
14	薬王院本堂 3	けらば	30	西蓮寺相輪櫨 7	枯葉が
15	竜禅寺三仏堂 2	背面	31 参考 1	白水阿弥陀堂 (福島県)	全景
16	竜禅寺三仏堂 3	須弥壇裏	32 参考 2	浄法寺相輪櫨 (群馬県)	櫨身の文字

## (2) 撮影後記

### 薬王院本堂

お寺というものほどこも軒が深いので、写真を撮ると軒下が暗くなります。ですが、軒下はいろいろな造作があり興味深いところです。

パソコンで色を調整しようとする、これが問題になります。軒下が暗くつぶれていると面白くない。そうかといって、暗部を明るくするとイラストの様になり写実性が失われる。特に薬王院本堂でそれを感じました。日の出直後の太陽が低い時に撮影すればよいとも思いましたが、それはそれで特殊な時間帯の写真になるような気がします。

### 竜禅寺三仏堂

撮影に行ったとき、偶然ですが団体の見学者グループとちかあいました。見学者のためにお堂を開いて、堂内を撮影してもいいですよ、とお寺の方に言って頂きました。これは運がいい、と喜んだのですが、考えてみると、室内を撮影する事は想定外で、新しいカメラを使いたしたばかりであり、感度設定の方法もおぼつかない状態で、とてもあわてました。

堂内の撮影では仏像が付きまといま。仏像は撮ってはいけないうらうと思ひ、避けるようにしてはいたのですが、念のために伺ったところ、撮影してもよい、とのこと。大慌てで須弥壇を入れたカットを撮影しました。帰宅して撮影した物をチェックしたところ、どうもおかしい。須弥壇の三仏が入るカットに左端の仏様が写っていません。撮影アングルから考えると写らないわけがない。ひとつ前のカットには左端の仏様の右肩が確かに写っているのです。この間1分ほどの時間しか経過していません。この時には背中がぞっとしました。仏様を写真撮影するなんて何と不届きな奴だ、とばかりに、あの世から使者が送り込まれて撮影させないようにしたのかと。

もしかして、お寺の方が左端の仏様が写らないように位置を変えたのかしら、などと想像をめぐらしました。それでこのことをお寺の方に聞いてみようかと3度ほど電話をしたのですが、3度ともつながらないのです。

一体どうなっているのか、と詳しく見ると、三仏が入るカットの左手前に黒い像が見えました。つまり、三仏が含まれるカットを撮影したときに突然黒い像が左端に入り込んだのです。その後、ネットで調べてみると、この黒い像が写った写真がありました。つまり、「左端の仏様の右肩が僅かに写っている」というカットと、「黒い像が入り込んだ」カットは僅かにアングルが異なり、最初のカットでは黒い像が写ってなかったという事の様です。

ずっと後で、堂内の写真の公開について確認しようと電話をしたときにはつながり、三仏が写らない範囲でなら、ということでした。電話はこの時にはつながったので、つながらなかったときに使った電話番号は間違えていたのではないことは確かです。今でも不思議です。

## 西蓮寺相輪櫓

今回の寺院建築シリーズでは、撮影に行く前にネットなどで下調べしてから行くのですが、相輪櫓というのはイメージがつかめませんでした。撮り始めるとびっくり。大量の文字が刻まれています。急いで駐車場にズームレンズをとりいき撮影を続けましたが、カメラの液晶モニターでは細かいところはわからず、うまくとれたか不安が募ります。

自宅に戻ってパソコンのモニターでチェックするとピントが甘い。オートフォーカスの限界か。通常の場合はオートフォーカスは十分に高性能で、マニュアルフォーカスとの差はほとんどないことを確認していますが、この被写体はコントラストが低く、オートフォーカスでは無理かも。APS-Cフォーマットなので被写界深度は十分に深く、ピンボケはないと思っていましたが、ズームの200mm(35mm換算で300mm) F8ではピントが不十分。次回はF16かF22で撮ろうと決心。

4月。2回目の撮影。帰宅してチェックするとまだダメ。F22でも被写界深度が足りず、また絞りすぎで解像度が落ちているようです。さらに、下から見上げる位置が急角度のものは望遠いっぱい画面では全面が平均的にピントが合っているものは皆無で、上が合っていると下がボケ、下が合っていると上がボケ。もうすこし長い焦点距離のレンズで、すこし離れて撮影対象がカメラとできるだけ正対するように撮影したい。しかしそれでも不十分そう。以前に大判カメラを使っていた経験から、これはあおり(ティルト)が必要と判断。いろいろ調べて、ミラーレス一眼カメラと一眼レフカメラ用レンズをマウントアダプターを介す方法がよいと最終結論。あおりはティルト機構付きマウントアダプターがあることがわかり見通しがつきました。ネットオークション・通販などでカメラはSony nex-c3、レンズはNikkor AF 75-300(かなり昔のレンズ)などと機材を調達。300mmなら35mm換算で450mmであり、焦点距離としては限界でしょう。

3回目の撮影は5月下旬になってました。nex-c3のMFアシスト機能で7.5倍/15倍拡大表示させてのマニュアルピント合せはやりやすく、ティルト撮影も想定通り。想定外だったのは、思いがけない蚊の襲来と伸びたイチョウの枝と葉。虫よけスプレーとは思ってもよらず、また伸びた枝・葉で撮影対象が一部隠れてしまいました。予定していた撮影は思惑通りにはできず退散。しかしパソコンで確認すると、撮影できたものに関してはようやく思っていた通りのピントが得られました。75-300のズームはかなり古い設計ですが、解像度の点で非常に優秀と感じました。

しかしながら、この様子では、次回の撮影は落葉後の12月中旬以降にならないとだめようです。

## 群馬、栃木の相輪櫓

西蓮寺相輪櫓と比較する上で、群馬県の浄法寺相輪櫓、栃木県の大慈寺相輪櫓、日光の輪王寺相輪櫓はどうしても撮影したいと思っていました。なかなか時間がとれず、ようやく時間の都合がついたときに出かけました。

途中で雨がばらつき、あきらめて帰ろうかどうしようか、と迷いながらもそのまま進んでいくと、天気は何とか持ちこたえそうでした。浄法寺相輪櫓についてみると何としたことか。害虫駆除でしょうか、防毒マスクを付けた方が薬液をまいているのです。ほかに人と言えば、配達の人が通り過ぎるだけ。配達で通りかかると数分で終わるので問題はないのかもしれません。私の場合、ここはメインテーマなので、普通に撮影すると1時間以上かかります。かといって、薬液が渦を巻いているところでは長居は無理です。本当にざっと撮る、ということで切り上げました。

でも考えてみると、このように薬剤を散布するのは年に1回か2回でしょう。運が悪いのですね。

大慈寺のあとは日光輪王寺ですが、着いた時にはポツリポツリと雨粒が落ちてきます。大慌てで、露出補正など考える余裕もなく数カットを撮影して引き揚げました。

撮影ポイントには何度も通わなくてはいけない、というのは分っていますが、なかなかできません。それにしても、どうしてこのように思いがけない問題が起こるのでしょうか。西蓮寺相輪櫓の時の蚊とか、浄法寺相輪櫓の時の薬液散布とか。

— 以上 —